

2015年3月期 第3四半期決算説明会Q&A

【2015年3月期 Q3実績・通期見通し】

Q: 今回の下方修正の要因は技術力の低下か、市場環境の変化か、どちらの要因か？

A: 技術力の低下は全くない。今回は主に日本の計測市場環境の変化が主要因である。

Q: モバイル市場の開発分野は横ばいの様相だが、いつ頃から需要回復するのか？

A: 米国・中国などで新規参入プレーヤーもいるが、設備投資は顧客の業績などに左右される。Q3で期待していた需要はQ4から来期にかけて獲得できると見ている。近年OTT(オーバー・ザ・トップ)と呼ばれるIT企業や新興ベンダーでの投資も拡大しており、新規顧客の獲得に注力していく。

Q: これまで注力してきているキャリア・アクセプタンス・テスト市場(CAT市場)でのビジネス状況は？

A: 通信キャリア各社のサービス導入や新規格採用などを機会としてCAT市場の拡大は継続しており、アンリツは引き続き注力していく。世界3拠点(英、米、日)による開発体制の一層の強化と、顧客に密着したサポート体制の強化でシェア拡大を進める。

【中長期の見通し】

Q: Q3で計測事業の営業利益率に低下(10.1%)がみられるが来年度以降の営業利益率をどのように考えているか？

A: 次の中期経営計画(2015年度～2017年度)は現在検討中だが、売上増による利益率改善、原価低減活動、グローバルベースでの開発投資の効率化、顧客サポート体制改善を通じて現在の利益率からの改善に取り組んでいく。

Q: 第五世代携帯電話(5G)やインターネット・オブ・シングス(IoT)関連のビジネスはいつ頃からアンリツの業績に貢献するのか？

A: 現在5Gの規格策定に向けた動きが進捗している。2018年までには規格化されビジネスが拡大していくと想定している。IoTについてもその中で規格化される動きがある。

【その他】

Q: 今回、監査等委員会設置会社への移行を発表しているが、社外取締役のバックグラウンドについてどのような人材を期待しているのか？

A: 弊社は最先端でニッチなグローバル市場を事業領域としており、その分野に精通した社内取締役に加え、異なる視点を持った事業経験者(CEO/CFO)を迎えることが企業価値向上とガバナンス両面で重要であると考えている。